

令和3年度 東京都立雪谷高等学校全日制課程 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立雪谷高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成 総務部主任（主幹教諭）＝事務局長

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、総務部主任（主幹教諭）、教務主任（主任教諭）、
生活指導主任（主幹教諭）、進路指導主任（主幹教諭）、第一学年主任（主任教諭）、
第二学年主任（主幹教諭）、第三学年主任（主任教諭） 計10名

(4) 協議委員の構成

地域関係者代表3名、教育関係者代表3名、近隣中学校代表1名、
同窓会代表1名、PTA関係者代表1名 計9名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和3年6月4日（金）内部委員10名、協議委員9名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和3年11月5日（金）内部委員10名、協議委員8名

前期教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和4年2月4日（金）内部委員10名、協議委員9名【書面開催】

年間教育活動に関する報告、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、
次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和3年11月5日（金）内部委員2名、協議委員3名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価の分析・考察、今年度の学校評価の実施に向けた検討、今年度の学校評価の観点・項目・内容の検討、実施時期の検討

第2回 令和4年2月4日（金）内部委員2名、協議委員3名【書面開催】

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模（実回収数）

12月 全校生徒 836名（827名回収）

12月 保護者全員 827名（693名回収）

12月 地域住民・同窓会 60名（35名回収）

12月 教職員 51名（51名回収）

(3) 主な評価項目

学校経営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全（ライフ・ワーク・バランスを含む）、施設設備などの評価項目を、学校の実態に合わせて適宜設定する。

(4) 評価結果の概要

昨年度と比較すると、「自宅学習」「交通ルール・公共マナーを守る指導」「教職員の在校時間の縮減」の3項目以外については、昨年並みもしくは改善されている。上記の3項目については、校内体制を整え、組織的に改善していく必要がある。生活指導については、生徒・保護者ともにしっかり行われているという回答が多い。近隣の中学校教員からは、校内における夏期・冬期講習、自習室、いじめ基本方針についての認知度はまだまだ低い。本校の学習指導や進路活動の取組についての工夫した情報発信を積極的に行う必要がある。

(5) 評価結果の分析・考察

ア<学習指導>「分かりやすい授業への努力・工夫」の満足度は、生徒が82.5%に対し、教員が94.1%、外部業者による授業評価アンケートの分析、研究授業等に関する校内教員研修を年2回以上実施し、教員の求める授業レベルが上昇傾向にあると教員は判断している。ICTを使用したオンライン学習を導入し、自宅学習時間を伸ばした生徒が増加した。

イ<進路指導>進学に向けた進路指導が充実しているとの回答は、生徒の85.6%以上であるが、保護者は65.7%である。学年や教科、進路指導部が連携し、全校的な指導計画を立て、自学自習支援体制の確立を充実させ、希望の進路の実現を目指させたことが、進路実績にも繋がった。日頃より担任による面談の実施や受験対応の授業の増加、大学受験にむけた実践的な講習の質の向上を組織的に行ったことにより、国公立や難関私立大学への合格につながった。

ウ<生活指導>学校生活・社会のルールの遵守、自転車の乗り方のマナーについて生徒の78.5%が守っていると回答。地域の方は概ね、マナーが良く守られていると答えている。自転車安全教室を毎学期末に実施したことでマナーの定着が図れている。毎月の拡大生活指導部会に基づき、生活指導の共通理解を図った。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 成果

学校の教育活動に対し、積極的かつ建設的な提案・意見が得られた。学校評価アンケート結果からは、学校の満足度、学校行事の生徒の主体的な取組や行事と授業のバランス、部活動の充実について高い評価となった。多くの点で、昨年度から改善されたことが成果である。

(2) 課題と改善事項

ア<学習指導>「分かりやすい授業」「授業の進度レベルが自分の進路に適している」の項目では、教員と生徒の意識の差が大きい。「授業を受ける真剣度」は昨年に比べて向上してきているが、自宅学習は、1・2年生の意識が低く、「毎日自宅学習をしている」が、50%を切っている。早い時期に組織的な指導をしていくことが課題である。

イ<進路指導>進路実現支援は生徒が85.6%で肯定的であり、昨年より向上している。担任や教科担当だけでなく、文武両立を図り、部活動顧問による進路意識の喚起や学習習慣の重要性を常に伝え、指導を充実させるとともに、模試を活用し、意識を向上させることが課題である。

ウ<広報活動>学校ホームページやツイッターで学校の取組紹介を充実させた。また、学校説明会での部活動紹介や応援パフォーマンス、若手教員による出前授業を実施、地域行事への参加も行っている。さらに、一昨年度から実施している学校見学会や説明会の申込みは、教育委員会の電子申請システムを活用している。さらに、学力に基づく選抜の倍率は、私立高校の無償化の影響もあったが、昨年を超える倍率であった。しかし、保護者や近隣中学校教員には、勉強合宿の認知度が低いことから、内容面に対しての広報活動の充実が課題である。

エ<伸ばしたい特色>1年、2年と教員は部活動や行事、3年、保護者は進路指導や授業の充実を特色とし、学力を伸ばして欲しいという意見が多い。部活動や行事を通して、母校愛の育成に向けた取組は充実できたが、進路指導の充実を一連の流れとする、組織的な指導が不十分であることが課題である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

進学校としての授業力の向上の教員研修の充実、週末課題やオンライン学習を活用した自宅学習の習慣化に向けて学校全体で組織的に取り組む。また、部活動や行事、キャリア教育など保護者や同窓会、地域との連携を一層深め、充実した教育活動を実践する。

(2) 学習活動

定期考査を活用した学力調査の結果により、生徒の実態に即した「学力スタンダード」とシラバス策定、「生徒による授業評価」を活用したP D C Aサイクルに基づき、授業力向上を図る。引き続き、各教科で模擬試験等の分析によるデータに基づいた指導、ICTを活用し、工夫した授業改善を実践していく。また、放課後の時間を活用し、オンライン学習の利用や、外部機関との連携により、計画的な補習補講体制を構築し、自学自習の習慣を定着させる。

(3) 特別活動（学校行事・部活動）

学校行事や部活動などを通じて、生徒が主体となるよう取組を充実させる。また、達成感や成就感を得させ、思いやりと母校愛を育成する指導を継続する。

(4) 生活指導

「生活指導統一基準」に基づき、学校行事や部活動を通じ、規範意識の向上とルールを自主的に守る態度やマナーを徹底し、教育理念である「社会に貢献できる人の育成」を目指す。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員（外部委員）

(1) 協議委員人数 9名

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	2	1	0	0	0	3

(2) 「学校がよくなった」と肯定的に回答した協議委員の人数 5名

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

8 その他

- ・ 近隣からの関心が高く、高校生のマナーに対する問題点についてあらためて把握することができた。
- ・ 学校公開の機会を増やすため、ホームページ・ツイッターの更新を月20回程度行った。